# 高齢者に安心を

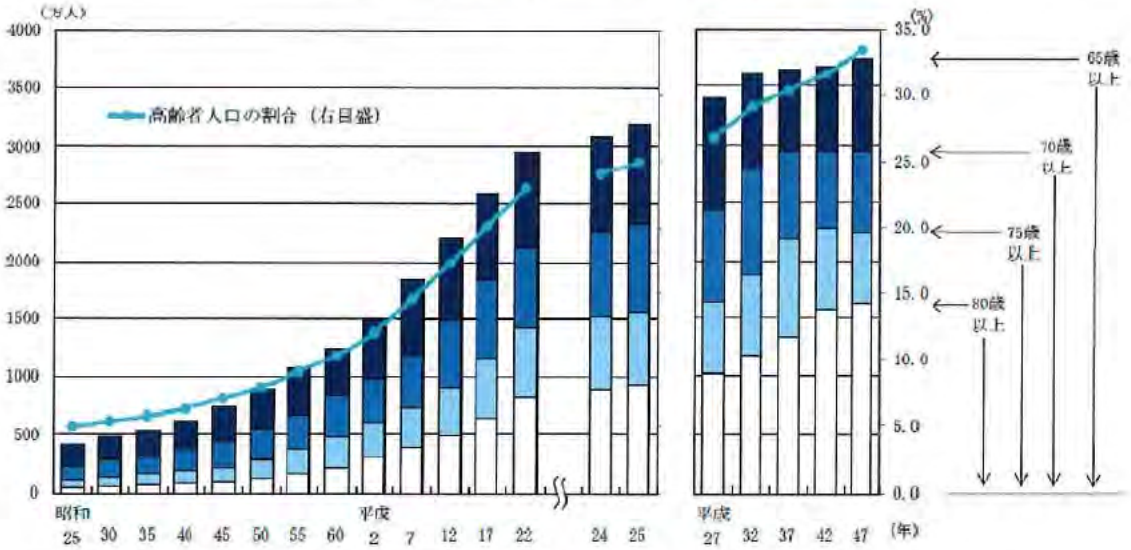
## ～未来のまちづくりを見据えて～

### 1．はじめに

今私たちが日常として当たり前のように利用している公共交通機関（今回は電車に視点を置いている）は、とても便利ですが、最近では高齢者の姿が少なくなってきている様に感じられる。それに加え、私たちの日常生活から切り離すことのできない重要なインフラとなっている。

例えば、電車に乗り降りする時に列車とホームの隙間があり、満員時には人をかき分けて出なくてはならない。高齢者にとって電車は危険と認知されているかもしれない。単に高齢者と言っても耳が聞こえにくい人もいれば、足が動きにくい人、車いすの人など、様々な身体的障害を抱えた人たちがいるかもしれない。そういった高齢者が増加していく高齢化社会に向けて「高齢者専用車両」を今回は提案したい。

**図１　高齢者人口及び割合の推移**




資料：昭和25年～平成22年は「国勢調査」、平成24年及び25年は「人口推計」
平成27年以降は「日本の将来推計人口（平成24年１月推計）」出生（中位）死亡（中位）推計（国立社会保障・人口問題研究所）から作成
注）平成24年及び25年は９月15日現在、その他の年は10月１日現在

＜出典：総務省統計局 HP＞

## 2. 現状の問題点

最近では，時間帯を限定した「女性専用車両」もできています。本来女性専用車両というのは痴漢被害への対策のために作られた車両であり、また高齢者や子どもなどを優先して保護する役割を果たす目的もあります。私は「女性専用車両」の本来の意味を知っている人は少ないのではないかとと思います。多くの女性、特に若い女性にとっては、女性のみが乗れると思っているでしょう。そういった誤った情報、またその場の雰囲気などによって高齢者の数は少しずつ減っていったのだと思う。そのため、本来の交通弱者のための車両とした運用に戻すか、または、普通車両とは違った「高齢者専用車両」を作らないとこの問題は解決できないし、その場の雰囲気や視線などによる威圧には対応できないと思っている。また、普通車両においても現状優先席が設けられているがこれから高齢者が増えるにつれ、今のままだと不十分だと考える。

## 3. 高齢者専用車両も作ってしまおう！

どうしようもない問題がある限り、「高齢者専用車両」を作った方が、根本的な問題を解決できると考え、提案します。
「高齢者専用車両」の意味としては、高齢者はもちろん障害者や同伴で来ている人も乗車可とする。今の駅には落下を防ぐための柵が設置されてきている。
具体的には
・高齢者専用車両を一番前に１車両設ける
・乗り降り時に落ちないように出入れするスロープをつける
・車いすでも通れるように十分大きな扉をつけ、車いすを置けるスペースも確保する
・周囲の目が行き届くように窓をできるだけ多く設置する
・車内には手すりもつけ、横一列の座席にする→車内全体が見えて安全
・どこから見てもわかるように大きめの電光掲示板で次の駅名などを表示し、アナウンスの音量も大きめに設定しておく
・電車を降りた付近には高齢者専用エレベーターや高齢者専用通路を設ける（駅舎のハード対策）

## 4. 高齢者専用車両をつくるにあたって

上記のアイデアを実現するには、高齢者専用車両の追加、駅ホームのリフォームなど資金や工事期間、労働力を要する。しかし、これからの社会で高齢者が増えていくことを考えると高齢者専用車両の整備は十分な価値がある。今後は、高齢者に視点を合わせたまちづくりをしていくことで、より人に優しいまちを実現できると考える。

あくまでも普通車両にも優先席はあるが、高齢者の人は毎回座れるとは限らない。疲れている人、病気の人がいるかもしれない。そこに関しては周りの人の譲り合いの気持ちが大切になってくる。私たちもいずれは高齢者になります。もし高齢者の方々にも利用しやすい街ができたら高齢者にできる仕事が増え、文化交流の機会も増加し、同世代の関係も深まり、より住みやすい活力のある街になったりするかもしれない。高齢者を優先した視点に着目したまちづくりをしてみてはいかがでしょうか。